

長崎市長

田上 富久 様

平成20年10月29日

平成21年度政策要求

【活力ある住みよい長崎をめざして】

(予算編成に対する要望)

市民クラブ

団長 緒方 富昭

【はじめに】

サブプライムローン問題に端を発した米金融危機は、9月に大手金融機関の経営破綻を招き、世界的な金融不安に発展し、日本の株価や経済に大きな影響を与えています。

昨年、政府は日本経済が長期景気回復局面にあると示していましたが、世界的な金融不安が景気後退局面に拍車をかけ、新たな地域間の格差が生まれ、若年層雇用の悪化、派遣労働など非正規雇用の増加など雇用情勢は依然として厳しく、年金、医療、福祉、介護などの社会保障に対する将来不安は一層増大しています。

長崎市が公表した、平成21年度から平成25年度の一般会計の中期財政見通しでは、平成23年度までの3年間で70億円の収支不足が発生するなど厳しい財政状況が続く見込みで、基金残高がほぼ底をつき危機的な財政運営となります。

現在、懸命に財政の健全化を図っていますが、金融不安の影響が財政健全化推進の障害となることが懸念され、行政と議会が一体となった財政の立て直しが急務といえます。

そのような中、長崎市の課題として、財政問題をはじめ学校耐震化補強、新市立病院建設、環境問題、「龍馬伝」などを活かした長崎市の特色ある観光振興等、課題は山積しています。

私たち市民クラブは、昨年、平成20年度の政策制度要求にあたり、「活力ある住みよい長崎をめざして」をスローガンに長期的視野に立ちつつ、長崎市の積極的な取り組みを期待して向こう3年間を見通した政策提言を中心に取りまとめました。

今回、平成21年度の市政運営に対する考え方と予算編成に対しては、平成20年度政策要求を基本として継続するとともに、「平成21年度予算で取り組むべき重点課題」を策定しましたので、市長ならびに当局の積極的な取り組みを期待し、その実現を図られるよう強く要請いたします。

【平成21年度予算で取り組むべき重点課題】

当面する以下の具体的課題について、次年度予算で緊急に取り組まれない。

- (1) 来年度から早急に学校施設の耐震化工事に入るとともに、教育予算の拡大と教育政策の充実を図ること
- (2) 物品、サービス、コンサルの入札においても、総合評価方式を取り入れ「障がい」者雇用や環境保全、男女均等待遇等への取り組みを評価項目として取り入れること
- (3) 出先機関を含む組織の再編・見直しと効率的運営を図ること
- (4) 学童保育の改善と充実のため小学校の余裕教室や学校施設の積極活用を図り、適正規模化を図ること
- (5) 後期高齢者医療制度の廃止を強く国に働きかけること
- (6) 新西工場の建設については、「新西工場建設検討委員会」を中心に建設用地の選定および地元との合意形成を行い、建設の早期実現を図ること
- (7) 中小企業経営安定支援策の充実を図ること
- (8) 景観法に基づく景観基本計画を策定すること
- (9) Iターン・Uターンに対する定住支援策の充実を図ること
- (10) DV防止、児童虐待防止のため、学校をはじめとする関係機関と連携を強めるとともに、DV防止のための研修と教育を中・高校で行うこと。また、DV防止、児童虐待防止のための非暴力プログラムの開発、普及

を行うこと

- (11) 「障がい」者の自立と社会参加の促進及び本市独自の軽減策の実施に努めること
- (12) 保育園待機児童の解消のため認定こども園の設置促進と認可保育園の拡大を図ること
- (13) 空家対策の一層の推進を図ること
- (14) 被爆体験者医療給付制度については、早急に制度改善を国に対して求めること。また、被爆二世検診にがん検診を加えること
- (15) 市民総合窓口システムの設置をおこない、市民サービスの一環として諸手続きの利便性の向上を図ること

(16) 交通政策

- ①女神大橋と連結する国道 202 号線の改良拡幅と歩道の整備
- ②長崎半島への唯一の幹線道路である国道 499 号線の岳路～黒浜間を含む全線の改良拡幅
- ③滑石－左底 線の改良拡幅
- ④打坂－百合野 線の改良拡幅
- ⑤トラック・タクシーベイ(浜の町、新大工、八千代町)の整備・拡大
- ⑥長崎バイパス・矢上大橋の早期無料化
- ⑦交通機関のバリアフリー化の一層の推進
- ⑧路面電車の延伸と低床電車導入の働きかけ
- ⑨伊王島大橋完成後も、現行の高島・伊王島航路を存続させること
- ⑩市道の整備促進
(三原浜平線とその接道改良、戸町 2 丁目上戸町間の一方通行解消、片淵・鳴滝線、川上町・出雲線、虹ヶ丘町・西町 1 号線、愛宕・飯香浦線、江川町・平瀬町線、などの建設促進)